

大川原ウインドファーム見学記

近藤康夫

2008年10月4日(土)、早朝に新居浜を発って、通い慣れた高速道路経由で徳島市に着いた。車を置いて、徳島駅前の集合場所に集まった。途中は雨にあったが天候も回復した。

この日は、卒業した大学の同窓会(工業会)徳島支部の研修行事として、大川原ウインドファームなど幾つかの電力施設や考古資料館の見学会が催されたのである。その多くの方が私より年上の先輩達であったが、若い人や女性も若干混じっていた。

市街を通り抜け、山間道路を経て、風車が遠望できる場所も幾つかあった。以前からこの場所は、大川原高原と呼ばれて旭ヶ丸(約1,000m)という山の東尾根に大川原牧場を開拓し、牛の放牧場があり、「佐那河内いきものふれあいの里」という遊休施設もあるところである。最初に「府能発電所資料館」に入ったが、ペルトン水車発電機など昔の水力発電施設が展示されていて、1世紀ほどタイムスリップした思いであった。写真1は発電所資料館からの風車遠景である。



写真1 遠望

牧場の下にある駐車場に到着すると、そこには5号機の風車が立っていた。

東西約4kmの山稜に15機の風車が点在するが、西側から1~4号機は牧場付近に立てられている。この辺りの所在地は徳島市に隣接する名東郡佐那河内村であるが、勝浦郡勝浦町および上勝町にいたる地域におよぶのである。10~15号機は途中の山を挟んで向こう側にあり、この場所からは見えないところに位置するのである。



写真2 展示資料の一部

あじさい畑の道を少し下った駐車場には「大川原高原ヒルトップハウス」が以前からあったが、そこにこの風力発電所の概要や建設工事過程の写真などが展示されて、公開されている。今回の見学会のために会社の技術者が丁寧な説明と案内をして頂いた。



写真3 展示資料

概要は以下の通りである。事業会社は(株)大川原ウインドファーム（徳島市）で、事業開発者は(株)ユーラスエナジージャパンと四電エンジニアリング(株)である。総出力 19,500kW 総事業費約 50 億円、風力発電機は 1,300kW ×15 基 Siemens 社製(デンマーク)、タワー高さ 60m ブレード長さ 31m(3 枚) 定格回転速度 20rpm 増速機 20 倍 誘導発電機 出力電圧 690V 22kV 構内配電 66kV 系統連係変電所、開閉所、66kV 送電線（四国電力）。



写真4 1～5号機を背に立つ筆者

写真 5 調整中のブレード

写真 5 は調整試験中のため、全てのブレードを回転しないような向きに止めている珍しい光景である。後 1～2ヶ月の期間調整をして、12月頃から営業運転に入るといふ。



写真 6 6～9号機

写真 6 は 6～9号機の全景であるが、10～15号機は右手の山の向こう側に位置するので、ここからは見えない。手前に「大川原高原ヒルトップハウス」の屋根が見える。この辺りには初夏の花アジサイが最後の姿を留めているが、初秋のすすきも穂を出している。標高 1,000m の高原である。

大川原ウインドファームの年間予定発電量は、約 4,100 万 kWh であり、約 11,400 世帯分の電力を発生する。因みに CO₂ の排出量を 15,600 トンの削減をできることになる。



写真 7 6～8号機

写真7はタワー内部のエレベータである。

なお参考までに、徳島市内の眉山山頂から見た大川原ウインドファームの全景が写真8である。

今回の見学は右手の雲の下にある大河原高原一帯の施設であったが、山を挟んで左側の10～15号機と連係変電所は後日見に行きたいと思っている。



写真 本年8月13日阿波踊りの日に眉山山頂から

見学記終わり